1月～3月

にこにこ組

③社会的発達と他者との関わり

「友だちと関わり合いながら、共に遊ぶ楽しさを経験する。」

ごっこ遊びの世界が広がっていた子どもたち。
お部屋のおままごとゾーンでは、お家ごっこ。公園では、木の枝を集めて焼き芋屋さんやポテト屋さんなどなど・・。
その時々で、周りにある身近なアイテムから子ども達のイメージが広がっていきました。

このときは、はじめは家族ごっこをしていたけれど、公園の手すりに座ると、りょうくんが、バズライトイヤーのイメージに繋がっていました。「シートベルト閉めてください」「揺れるよ～」と言葉のやりとりの中で、りょうくんのイメージがお友達にも伝わり、その世界を共有しながら、遊ぶことを楽しんでいました。

いよりくんが、まだ使いたいという気持ちを感じたようでその間、じっと待っていたほのちゃん。すると・・途中で、ほのちゃんがどこかへ行っちゃったと思ったら、面白いアイテムを見つけていました。穴の中から覗き込むほのちゃんの姿にいよりくんも「ほのちゃん、見てよ！」と言わんばかりのこの表情でした。
「かして」「いいよ」と譲り合うことも素敵だけど、お友達が使い終わるまで、何か別の面白いことを見つけたり、貸してもらうまで待ってみようと思うことは、今まで過ごしてきたお友達との関係性の中で“安心感”や“信頼感”の積み重ねが土台となって見られた姿なのかなと感じました。
（このあと、いつの間にかほのちゃんがでんでんだいごを使っていました！）

『らんらん組と過ごす中で・・』

進級へ向けて、らんらん組と一緒に遊んだり、お散歩へ行く機会を作っていきました。はじめは、「先生がいい！」とお兄ちゃん達からのやりとりに緊張している子も多かったのですが、にこにこさんのペースに合わせて、ほどよい距離感で関わってくれる姿に少しずつ「一緒にあそんでもいいかな」と心を開いていくようになっていました。

大きな集団になっていく中で、年上の子達と一緒に過ごして、お互いのことを知り、分かり合える関係性が少しずつ出来たらとらんらん組との時間を作っていきました。